



當舎 裕己

代表取締役社長

飯野海運株式会社

【会社概要】

本 社 所 在 地：東京都千代田区内幸町2-1-1
 創 業：1899年
 資 本 金：130億9,177万5,488円
 従 業 員 数：単体 166名（陸上110名、海上56名）
 連結 659名
 おもな事業内容：海運業、不動産業
 U R L：<https://www.iino.co.jp/>

海と陸と。安全のもとに

内幸町の本社ビルに

飯野ビルディングに入ると、1階から2階のホールに続く吹き抜けになっており、「イイノホール&カンファレンスセンター」へと上るエスカレーターが見える。

27階のエントランスを入ると両側のガラスケースに大型のタンカーの模型が飾られている。

タンカーのファンネルには、赤で井桁に「ト」のマークが掲げられている。

「これは創業者の飯野寅吉の『ト』です」

今回は、飯野海運(株)の當舎裕己代表取締役社長に、日比谷公園を一望できるビルの本社フロアでお話を伺った。

海運と不動産の2つの柱

「1899年に創業者が京都府舞鶴で港湾事業を立ち上げて、海軍に石炭を納めるようになりました。これが飯野海運の始まりです」

飯野海運は、石炭輸送から始まり、エネルギーの主役が石油に切り替わるときにタンカーの事業を始め、わが国最大の外航タンカー「富士山丸（初代）」などにより原油輸送に従事した。

その後もタンカー事業、貨物船事業や定期船事業を手広く行い、一時は大手に肩を並べるまでに業容を拡大するが、第二次中東戦争のスエズ動乱後に船賃の暴落が起こり、苦境に陥った日本の海運会社は6社に集約された。飯野海運は政府の指導で、定期船事業は川崎汽船と合併、タンカー事業を主軸とする会社に生まれ変わった。これを機に各種液体貨物輸送に力を入れ

るようになった。石油に加え液化ガスや石油化学製品の輸送は飯野海運が得意とするところである。

「海運は景気の影響を大きく受ける事業です。良いときと悪いときで収入が何倍も違ってくる。今は各国の経済政策で景気刺激策が行われており、海上輸送が活発です」

飯野海運のもうひとつの事業の柱は、不動産業である。1960年に内幸町に旧飯野ビルディングを竣工したのを機に、都心に6棟、ロンドンに1棟のビルを所有している。2021年には飯野ビルディングの隣に新たに日比谷フォートタワーが竣工した。

環境性能に優れた快適なオフィスビルを都心に建て、テナントに長期安定して入居してもらう。比較的安定している不動産業と、浮き沈みはあるものの世界経済とあわせて成長する海運業との両輪が「IINO MODEL」である。

創業100年超企業となった秘訣も「バランス経営で会社を122年続けてくることができたからです」とのことである。

なによりも安全を

「経営理念の最初に安全の確保が社業の基盤であると謳っています。海難事故は社会、環境に与える影響が非常に大きいので事故が起きないよう安全が第一です」と當舎社長。

良いサービスと商品を社会に適正な価格で安定的に供給し、取引先のニーズに迅速・的確に対応する。社会的要請に適応し、環境に十分配慮して、株主と役員へのリターン充実を目指し企業価値向上を志向する

というのが経営理念であり、その下に2030年に向けた「IINO VISION for 2030」を定めている。

人材育成

「飯野海運では、役職員に対して自己成長の場を与えることを約束しています」と當舎社長。「若い人にどんどん仕事を任せるようにしています」

飯野海運のフロアは飯野ビルディングの27階のみで、飯野海運の社員は160名ほど。毎年6～10名の新入社員を採用している。

営業であれば1年目から担当の船があり、顧客と相対して実際に仕事をしながら学んでもらう。

「若い人でも即戦力として活躍してもらいます。大企業とは違う醍醐味があると思いますよ」

コロナ禍でいまは実施していないが、半年から9カ月間海外に行って飯野海運がどのようなことをやっているのかを見て回る制度がある。また、乗船研修もある。日本からサウジアラビアへの往復、約1.5カ月の航海で、船の上の人たちの仕事を、身をもって体験するという古くからの研修である。

船の世界の面白さは世界中の人々と様々な商売を展開できることである。

「私個人としても若い人たちに世界観を広げてほしいと思っています」

當舎社長自身、飯野海運に入社したのは、世界中の人と仕事を通じて話がしたいというのが理由であった。一人でサウジアラビアのリヤドに飛び、夜の砂漠をタクシーで走っていたときに見た月がきれいだったことが一番の思い出そう。

飯野海運は採用する大学も様々である。同じタイプばかり集まると皆が同じ方向を向いてしまうという考えから、様々な大学、学部から男女の隔てなく採用している。

「現在、男女の隔てなく、志ある若い人たちに活躍してもらえるような仕組みづくりをしているところです」

環境問題に取り組む

「船会社はクリーンな業種ではなく、どちらかというと海を汚す悪者にされがちでした。海難事故を起こしたり、煙突からもくもく煙を出しているイメージがあったりするからです」

2020年から船の燃料である重油を焚くときに、煙突から出る煙をきれいにしようと、硫黄酸化物（SOx）の含有量を減らす国際ルールができた。今後は二酸化炭素のゼロエミッションに向け、アンモニアや水素を燃料にして二酸化炭素を一切出さずに船を運行させることを目指し、船会社、造船業、エンジンメーカーなどが一体となって取り組んでいる。

「今はゼロエミッションへの過渡期であり、重油に

比べ二酸化炭素を減らせる燃料であるメタノールやLPGを使った船舶に投資をしています」

環境に配慮した船舶はどうしても高くつくが、環境問題への意識の高まりによって、それが受け入れられる素地が早い速度で醸成されている。

不動産事業においても二酸化炭素削減の取り組みを進めている。

2011年に建て替えた「飯野ビルディング」は、高い省エネ性能を有しているビルである。オフィス内の照明はすべてLEDで、四面がダブルスキン構造（二重ガラスの間は80cm）となっており高い断熱性能を有している。

ビルの中央の共有部に設けたエコボイドにより、風が通り抜けて空気の循環がしやすい構造となっており、空気負荷の低減を図っている。

「飯野ビルディングができて10年経ち、新しい取り組みも進めています」

現在、飯野ビルディングで使用している電気の一部は、非化石証書付きの電気である。また、屋上に太陽光パネルを約500枚設置し、2022年5月から発電を開始する。

「ビルの電気の一部は屋上の太陽光パネルで賄うことができる予定です」

飯野海運のこれから

「財閥や銀行資本の影響を受けない独立系の会社でするので、より自由な発想で事業ができると考えています」

中期経営計画に掲げた「IINO VISION for 2030」では、時代の要請にこたえ、自由な発想で進化し続ける独立系グローバル企業を目指すことが謳われている。

當舎社長にこれからの飯野海運について伺った。

「若い人には、時代の要請に応え、地球規模で何が大事かを考えるように言っています。加えて進んで新しいものを取り入れていくという視点ですね」

當舎社長は力強く締めくくった。



富士山丸